令和８年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大谷場小学校 ）　　学校番号　０１５

学校教育目標	ひとみ輝く子の育成
目指す学校像	「笑顔あふれる学校」～子ども一人ひとりの輝く瞳と笑顔の実現に向け、児童、教職員、保護者、地域の方々が自ら多様な個性を生かしながら学び、協働する学校～

重点目標	１　自立した学習者の育成 ２　安心して学べる教育環境の整備 ３　学校・家庭・地域の協働 ４　安心・安全で質の高い教育環境 ５　教職員の資質向上と組織力強化

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

【様式】

達成度	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学校自己評価							学校運営協議会による評価
年度目標				年度評価			実施日令和９年２月１２日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に関する取組 1	〈現状〉 ○ICT 機器の活用は進んでいるが、教師主導の活用が中心である。 ○児童の「主体的に学ぶ力」に個人差が見られる。 〈課題〉 ○学びの自己調整（選択・振り返り）の定着 ○個別最適・協働的な学びの一体化	・主体的に学ぶ力の育成	①学習方法・課題・まとめ方を選択する授業の実施（週１回以上） ②学校課題研究で個別最適な学び・協働的な学びの授業研究会の開催（毎学期）	・児童学校評価「進んで学習している」のそう思う 60%(R7 58%) ・保護者の学校評価「主体的に学習」の肯定的な回答 80%(R7 72%)				
		・授業における ICT・データ活用と授業改善	①スクールダッシュボード等による学習状況の可視化と振り返り（単元ごと） ②市教委より指導主事を指導者に招聘（毎学期）	・iPad での授業アンケートの実施 ・iPad を活用した研究授業 年３回以上実施				
子どもの発達や心のサポートに関する取組 2	〈現状〉 ○児童の主体的活動やあいさつは定着しつつある。 ○不登校傾向・悩みを抱える児童が一定数いる。 〈課題〉 ○早期発見・早期対応の更なる充実 ○多様な学びの場・居場所の保障	・安心して生活できる環境	①「心を潤す４つの言葉」「心を元気にする４つの言葉」の指導（全教職員で指導） ②おはようメーター・心と生活のアンケート・心の日のアンケートの定期実施（毎月）	・児童の学校評価「相談できる」肯定的な回答 90%(R7 87%) ・保護者の学校評価「落ち着いて生活できる」の「そう思う」の回答 50%(R7 42%)				
		・教育相談・支援体制	①教育相談・ケース会議の実施（随時） ②Sola るーむ等の居場所の活用と支援体制整備	・ケース会議 年 12 回以上 ・Sola るーむ使用のきまりの周知と見守り体制の確立				
地域とともにある学校づくりに関する取組 3	〈現状〉 ○地域・保護者の協力体制は良好である。 ○学校の情報発信は行っているが、参画意識には差がある。 〈課題〉 ○「参加」から「参画」への転換 ○双方向の関係づくり	・情報発信の充実	①学校HP・便り等による継続的情報発信（週１回以上） ②学校公開・行事公開（年間９回以上）	・学校公開 年９回以上実施				
		・地域連携・協働 ・学校参画意識	①学校運営協議会の充実（年３回＋授業参観） ②地域人材を活用した授業の実施（各学年１回以上）	・保護者「学校参画意識」の肯定的な回答保護者 80%(R7 77%), ・地域「学校参画意識」の肯定的な回答地域 90 %(R7 86%) ・地域人材を活用した授業 各学年１回以上				
教育環境の整備に関する取組 4	〈現状〉 ○安全指導や点検は継続的に実施している。 ○校内環境（清掃・美化）にばらつきがある。 〈課題〉 ○児童主体の環境づくり ○安全意識の継続的向上	・安全管理	①安全点検・通学指導（毎月） ②防災・防犯・安全教育（学期１回以上） ③保護者・地域の校内巡回	・保護者・地域の学校評価「安心安全」の「そう思う」の回答 80%以上(R7 保護者 54% 地域 79%) ・安全点検 月１回実施 ・避難訓練等 年３回以上				
		・環境整備・美化	①清掃指導・環境美化活動（毎日） ②環境ボランティアによる樹木の伐採や除草	・清掃状況改善（教職員評価向上） ・職場環境アンケートの実施（年１回以上）				
教職員のキャリア形成に関する取組 5	〈現状〉 ○若手教員の割合が高い。 ○働き方改革は進んでいるが更なる改善が必要。 〈課題〉 ○授業力・指導力の底上げ ○働きがいと健康の両立	・授業力・専門性 ・組織力（チーム学校）	①校内研究・授業公開（年間３回以上） ②キャリアに応じた面談（年２回）	・希望研修会等に積極的参加 ・教職員の学校評価「働きがい」に関する肯定的な回答 90%(R7 85%)				
		・働き方改革・ウェルビーイング	①業務改善（ICT 活用・会議精選等） ②定時退勤日・時間外勤務削減の徹底	・定時退勤日年間 14 回実施 ・時間外在校時間 45 時間以内の人数 80%以上				